

高知くらしの護身術

264

クリーニング

点数と状態の確認を

(2012年10月23日掲載原稿)

クリーニングは日頃よく利用するサービスのひとつですが、トラブルも少なくありません。風合いの変化、変色、色落ち、紛失など、様々なトラブルがあります。

衣料品をクリーニングに出す際は、必ず点数と状態をクリーニング店と一緒にチェックしましょう。ほつれ、切り傷、虫食いに気づかないままクリーニングに出すと、穴や傷が目立って戻ることがありますし、パーマ液が付いていると、クリーニングでしみになる可能性があります。気になることがあったらクリーニングの方法等について店で尋ねましょう。

また、紛失トラブルの多くは、クリーニング店が顧客に仕上がり品を引き渡す際に起きていると言われています。できるだけ早く引き取りに行き、自分のものであることを確認して受け取りましょう。時間が経つとトラブルの原因特定が難しくなりますので、すぐに点数や付属品、色、かたち、風合いなどを確認しましょう。

クリーニング溶剤が仕上がり品に残留している場合、石油臭がします。このような場合、着用すると皮膚に付いて「化学やけど」を起こすおそれがあります。カバーを外して風通しのよい屋外で陰干しし、臭いがなくなるまで着ないようにしましょう。

SマークやLDマークを掲示している店では、預かった品物に損傷を与えた場合や紛失した場合、クリーニング事故基準をもとに適正に対処することになっています。この基準は業界の自主基準ですが、SマークやLDマークがない店でも解決の目安になるでしょう。

最近では、新素材や異素材を組み合わせたファッション性の高い衣料品が出回っています。購入の際に、繊維表示や洗濯方法を確認することが大切です。